

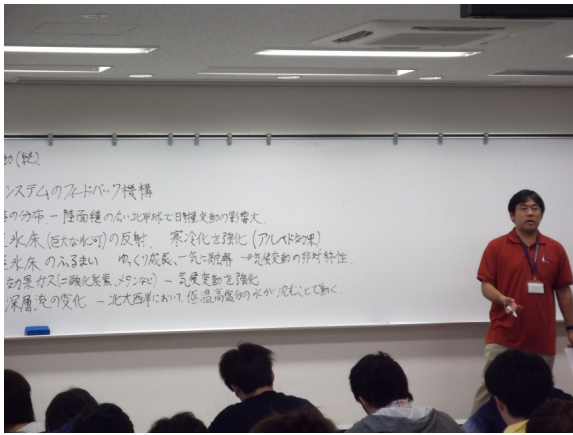
環境地理学

担当教員： 澤田 結基

履修年次・区分： 3・4年（専門―展開―共生・開発―選択）

授業のテーマ： 日本国内に展開する自然環境の特性を、地理学的な視点から整理して学習する。講義ではプレートテクトニクス理論から日本列島の成り立ちと地震・火山活動の仕組みや、気候変動によって生じた自然環境、特に地形や植生の変化を学ぶ。最後に具体的な事例紹介を通じて、瀬戸内海沿岸地域の自然が地質や気候変動、そして人間活動の影響を受けて成立していることを理解する。

この日の授業内容： 第四期の気候変動



2万年ほど前の瀬戸内海は陸地になっていました。その後、海となり、川が運んだ土砂が堆積して三角州ができました。つまり瀬戸内海沿岸の都市、広島、三原、福山、岡山、姫路などは、数千年前にできた新しい土地なのです。



三角州ができる様子を実験で再現します。目の前でみるみる土砂が溜まり、平地ができていくのをじっと見つめる学生たちの目が輝いています。

(2014年7月取材)